

ニジェール支所便り

5月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni_oso_rep@jica.go.jp

保久企画調査員(プログラム調整・支援)の離任挨拶

この4月30日で3年の任期を終え、5月1日に帰国することとなりました。関係者の皆様には大変お世話になりました。四半世紀サヘル地域での仕事に携わり、少々心をすり減らした気がしたので「海のある国に行きたい!」とことあるごとに言っていたら、念願が叶い6月末より、企画調査員(企画)としてガボンに赴任することとなりました。今後ともよろしくお願ひします。

佐々木企画調査員(プログラム調整・支援)の着任挨拶

保久企画調査員の後任で4月25日にニジェール支所に赴任しました佐々木です。2003年から12年間に渡り、青年海外協力隊、ボランティア調整員、研究者と異なる立場からニジェールと関わりを持ってきましたが、今回は初めてのニジェール支所での業務となります。ニジェール国内情勢やニジェールを取り巻く状況は12年前とは大きく様変わりし、不安定要素も多々ありますが、これまでの経験や知識を最大限に活かし、JICAニジェールを盛り上げていければと考えております。皆さま、どうぞよろしくお願ひ致します。

プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

【組織化担当】組織化担当業務の紹介

「組織化」担当団員は、ニアメ市内にある野菜生産組合を対象に、組合活動に係るモニタリングを実施しました。対象組合は、昨年VRACSの支援の下、野菜生産組合としての機能強化を見据えた活動計画の策定を行っており、今回のモニタリングは、当該計画の進捗状況を確認するという位置づけになります。

モニタリングの結果ですが、当該組合が策定した活動計画のうち、VRACSを含むドナーの支援を受けた活動については、ほぼ達成されていることが分かりました。例えば、定期的な灌漑

水路の浚渫や、農業資材販売所の設置と、その運営・管理等が該当します。一方、野菜生産組合の自助努力のみで実施に至った活動は、残念ながら現段階では確認できませんでした。

対象の野菜生産組合では、ここ数年間に渡って組合費の徴収が行われておらず、活動費の不足が、計画未達成の原因の一つとして考えられます。この野菜生産組合は、設立当初の組合費徴収率が極めて高く、かなりの纏まった資金を集めることができたようですが、組合費の不公平な支出によって生じた、組合役員に対する信頼感の欠如により、現在は誰一人組合費を払わない状態が続いています。よくある話ですが、なかなか解決するのが難しい問題です。

いずれにせよ、組合の機能強化に組合費の徴収は欠かせません。今後は、VRACS が支援してきた計 20 組合に対するモニタリング結果を纏め、上述のような課題を抱える組合に対しては、個々に解決策の提案や、組合役員に対する再研修を企画・実施する予定です。



野菜生産組合の役員に対する聞き取り調査の様子

【普及担当】ニアメ市 Saga 地区における FFS の活動紹介

ニアメ市の南東に位置する Saga 地区にはニジェール川が通っており、川沿いにはコメ、トマト、ピーマン、キャベツ、レタス等、様々な作物が栽培されています。この地区に住む男女 32 名の農民が「我々の農業を改善しよう！」というスローガンのもとに、Fahamey（現地語で「理解する」という意味）という名のグループを結成し、1 月から FFS の活動を始めました。活動のテーマは乾季作のキャベツ栽培における施肥の方法です。このテーマを選んだのは、キャベツ栽培において肥料の量や施肥の時期が、農民によって違いがあり、どのような方法が適切なのか、農民間でよく議論になるからです。

活動はグループを 4 つのサブグループに分け、それぞれが違った施肥方法でキャベツの栽培をしました。週に一回メンバーが集まってセッションを行い、葉の大きさや背丈の計測、苗や株の観察をして生長具合を分析し、その結果をサブグループ毎に発表します。これによって施肥方法による生長の差を比較し、どのような方法が適切なのか議論を行います。議論の内容はグループのテーマである施肥方法だけではなく、農業に関する事、灌水の頻度、除草をするタイミング等、様々なことに関して話し合いを行いました。

4 月に入ってキャベツが大きく成長し、収穫が近付いてきました。FFS では収穫が始まる頃に、Field Day を実施します。Field Day とは、収穫期にグループ以外の農民を集めて、活動を通して得られた技術や教訓を発表するものです。Saga 地区におきましても、4 月 16 日に実施し、テーマである施肥方法に関する発表が行われました。慣行法（施肥量や時期を決めなくて農民が必要と判断した時に施肥をする）だと生育は良かったが、必要となる肥料の量が多くなるため、コストパフォーマンスは悪かった。一方、試験法（施肥量や施肥の時期を定めて行う）では、慣行法に比べると生育は少し劣ったが、施肥量の無駄が省けコストパフォーマンスが改

善した、との結論になりました。農薬に関しては、伝統的な農薬と市販の農薬では効果の差は明らかになりませんでした。前者の方が体の害になる成分が少ないため、質の良いキャベツができるという結論に至りました。

発表後にはメンバー以外の農民から多くの質問があり、有意義な Field Day を実施することができました。今後は、雨季作の活動に向けて引き続きセッションを行う予定です。

(小手川／町専門家)



FFS におけるキャベツ栽培の様子



Field Day にて、FFS を通して得られた技術と教訓を農民の前で発表

■■みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

今月 4 月のみんなの学校プロジェクトでは、『補助金モデル・質の改善ミニマムパッケージ開発』パイロット活動において、算数ドリル活動の実践経験を共有し、活動実践およびファシリテーターの技術の改善へと結びつけるための「質のミニマムパッケージファシリテーター経験共有会合」を、対象 37 の CGDES 代表者（各校ファシリテーター 2 名）の参加の下、開催しました。2 月に実施した学力中間テストの全体的な結果を参加者と共有した上で、優良事例の共有や、対象校間での実践状況の共有・意見交換、共通する問題の抽出にかかる意見交換を行い、算数ドリル活動の実施時間や頻度、進行手法、ファシリテーション・指導、児童のモニタリング、関係者との情報共有等の面での改善戦略を協議・検討しました。また、今後年度末にかけての活動改善のみならず、夏季休暇期間、来年度へ向けた展望を検討する機会となりました。

『州教育フォーラムモデル開発』パイロット活動においては、タウア州内全 44 連合において、2 月に実施した州教育フォーラムの報告連合総会が開催され、それを受けて、多くのコミュニティがコミュニティ連絡協議会会合を実施したことが確認されました。また、来年度新入生の女子就学促進へ向けた事前登録がタウア州全校にて開始されました。『機能する中学校 COGES』パイロット活動においては、対象校の学校活動計画回収を行った結果、特にドッソ州の対象校において、卒業試験結果改善へ向けた COGES 活動が適切に計画、実施されている状況が確認されました。

その他、ニジェールにおける学校運営委員会活動の持続性を高める体制強化のため、学校運

営委員会にかかる講義を教員養成校に導入することを目指し、教員養成校講師への研修実施へ向けた準備を開始しました。この教員養成校への学校運営委員会研修は、コミュニティ参加による学校運営委員会活動の活性化においては、保護者・住民のみならず、校長ならびに教員の理解が重要となる点に鑑み、今後、学校現場へと向かう教員候補生に対し、事前に学校運営委員会活動にかかる情報を提供し、赴任後の現場における実践へと結びつけられるようにすることを目的としています。今後、引き続き教育省ならびに関係局との協議・調整を経て、CGDES調整部ならびに教員養成校講師に対する研修を実施し、研修を受講した講師による教員候補生への講義実施へと繋げていく予定です。

(影山専門家)